



AICHI SANGYO UNIVERSITY

Real

Symbolic

卒業研究作品選集 2007

愛知産業大学 通信教育部 建築学科

建築学科の方針 —— 学術、技術、芸術を集結した建築の総合教育

本科は、工学系、美術系の枠にとらわれず21世紀の建築界のニーズに応えられる建築家や建築の知識を持ったキーパーソンの育成を図っています。

常に空間を意識した建築造形の能力や、社会の要請に的確にこたえる設計手法や理念を養うために、工学・美術・芸術・社会科学や一般教養までがバランスよく構成された、豊富なカリキュラムを用意しています。

また、社会人が通信教育で効果的に建築について学べるよう、各科目のテキスト、学習指導書やスクーリングの内容にも工夫を凝らしています。

豊かな文化性と社会性を兼ね備え、総合的な建築視野でこれからの社会を考えられる教育の場を提供します。

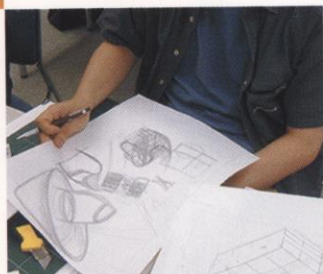
建築造形、建築設計、CAD、構造・力学の演習科目を中心として、建築の各専門分野から幅広く修得します。さらに大学教育の集大成として、卒業研究に取り組み、造形デザインにおける建築・都市の可能性を追求します。



守屋 弓男 教授

建築学科の特色 —— 実践的な教育

美しく、人に喜ばれる建築、街並みを作りたい。



建物に住む人、その街に暮らす人、そして訪れる人が喜びを感じられる、そんな建築ができれば社会的意義は大きいと思いませんか。ファッションが機能性、美的センスを重要視するとおり、建築や街並みも環境に調和した機能や美しさ(デザイン)が求められます。単に雨、風がしのげるだけではいけません。自己満足でも困ります。21世紀の日本は、美しい未来を予感させ、何かワクワクするような建築や街並みが求められています。皆さんも、その一翼を担う建築家や設計のプロフェッショナルを目指してみませんか。

社会で活躍できる人材の養成



忙しい時間を割いて学ぶ皆さんにとって、その貴重な学習時間が、今後の仕事や日常生活に結びつけられれば言うことがありません。通信教育部建築学科はまさにそこにねらいをおき、社会人を対象とした受講しやすい教育システムを構築しています。

教育内容は短期間(3日間)のスクーリングや通信科目でできるだけの建築知識・技術が得られるよう、課題作品やレポート課題に工夫をこらしています。スクーリングでは、より高いレベルの集中講義、演習を行うため、現役で活躍する建築家や各建築専門分野の教員が授業を行います。さらに造形学部の特徴を活かし、工学や芸術の枠にとられない、創造的な視点で建築を考えられる人材の育成を目指しています。

建築士の資格を視野に入れて



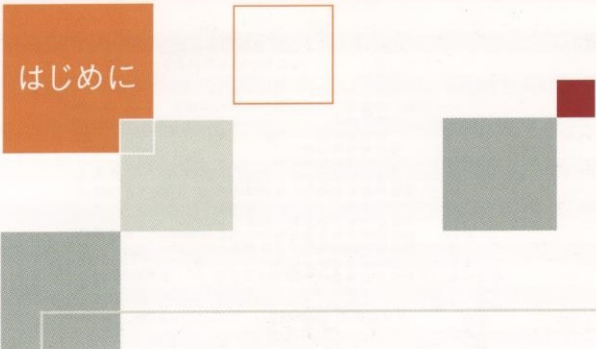
建築業界で働こうとする人が建築士の資格を必要とするのは言うまでもありません。ある先生の話ですが、「力士がまわしをつけるのと一緒で、建築業界で頑張るのだったら、まずはまわし(建築士資格)をつける必要がありますね。」とおっしゃっていました。建築士の資格取得は、本学科の目標の一つですが、とても重要なポイントに位置づけています。卒業後には、二級建築士の受験資格が得られます。また実務経験2年を経て一級にもチャレンジ可能です*。二級建築士の受験対策では卒業後に無料の学習相談会やWEB質問掲示板でサポートしています。さらに2007年度からは大手資格学校(日建学院)と提携し、学科講座をアカデミック価格で提供しバックアップしています。

[*建築士法改正により指定された科目の履修が要件になる予定です。]

サテライト教室(東京・名古屋)やネット学習環境の整備にも力を



通信教育で学ばれる方は、在住地を問わず、各地から学びに来られます。場所を問わないことは通信教育の魅力の一つですが、本学ではスクーリング受講の利便性を考え、サテライト教室の運営に力を入れています。現在、サテライト教室を東京・名古屋におき、遠方の学生がより受講しやすい態勢をとっています。また大阪においても提携の専門学校の協力を得て、多くのスクーリングを開催しています。東京サテライトでは建築学科で卒業に必要なスクーリング(面接授業)全てを開講しています。また愛知県では、本学(岡崎)はもちろんのこと、名古屋の副都心、金山の名古屋サテライト(金山総合駅前)で大半のスクーリングを開講しています。サテライト教室では、さらにスクーリング以外でオープン教室を定期的に行い、学習サポートを行っています。その他、インターネットを活用し、WEB掲示板やブログの情報提供で積極的に学習環境の整備を図っています。



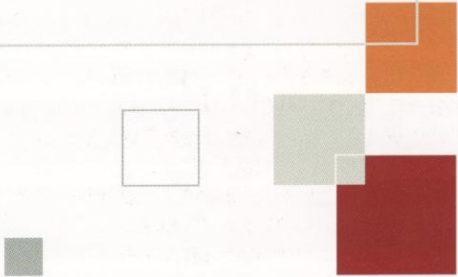
はじめに

平素より愛知産業大学には格別のご厚情を賜り、謹んで御礼申し上げます。
昨年度、通信教育部造形学部建築学科では初めての卒業生を送り出すこととなりました。

さてこのたび、以前より開講している建築デザインコースの学生と合わせ、卒業研究総数88点の中から選ばれた優秀な作品16点を「卒業研究作品選集」としてまとめました。社会人をはじめ様々なバックグラウンドを持つ通信教育部の学生らしい意欲的な作品が集まりました。本学のあります愛知県では通学部と合同で卒業研究展を行っています。加えて昨年度より東京でも初めて開催いたしました。それらを冊子にまとめた「卒業研究作品選集」は初めての企画となります。

今後とも、優れたデザインを生み出せる卒業生の輩出を目指して一層の努力を続けていきたいと考えております。引き続き、ご指導ご助力いただきますようお願い申し上げます。

愛知産業大学 通信教育部
造形学部 建築学科教授 主任 守屋 弓男



2007年度 卒業研究受講生の現住所分布図



2007年度 卒業研究の分析とトレンド

コンセプトおよびコメントの文章に対しキーワード重要度計算プログラムを適用し、その出力結果に固有名詞等の除去などのクレンジング処理を行なった。

コンセプトの分析によるトレンド

1 位	道
2 位	施 設
3 位	ま ち
4 位	人 々
5 位	周 辺
6 位	交 流
7 位	文 化
8 位	森
9 位	壁
10位	集合住宅

コメントの分析によるトレンド

1 位	都 市
2 位	デ ザ イン
3 位	施 設
4 位	建 築 空 間
5 位	可 能 性
6 位	造 形
7 位	敷 地
8 位	空 間
9 位	環 境
10位	流 れ

2007年度 卒業研究 全リストと選出作品目次

選出作品	タイトル	氏 名	掲載項
●	絹に思ふ ～日本産業革命の原点～ 誰でも博士／小中学生のための科学塾 富士通塾の開校～企業の社会貢献活動の一環として 集・学・住 ― 上飯田バスターミナルと市営住宅の建替 ―	赤石 幸恵 浅野 亮太郎 飯塚 通代	4
	精神科閉鎖病棟 未完の博物館 広島西飛行場ターミナルの設計 視線が交差する地域のたまり場 ～子どもは地域のかすがい～ 湊 ― MINATO ― 「駅を快適な市民の交流の場に」 新宿駅緑化自由通路	石原 明子 磯島 義洋 井戸 朗 伊藤 彰英 乾 亜砂子	
●	駅前雄空間～本郷にこころ 流動・増殖する ---- そこでは人は交流する ---- うつろう・光 旧街道の美術館 a Living Nursery School ～自然環境一体型保育園～ ふれあいマンション 保育園へ行こう！ ― 就学前の子供たちが過ごす遊び場 ― 第2の園庭デッキ、小さな空間、緑の園庭 多世代が集う複合型小学校 恵比寿古アパートコンバージョン計画 Come Here! イセシュ―ゴウ ～ Ise Shurine,Go! ～ おとなのためのこども図書館	井上 昭乃 植田 隆宏 宇治原 紀美子 薄井 ちひろ 大川 泰邦 大西 由起子 大橋 理恵 奥田 いずみ	5
●	Sou-Zou 2008 ～ 人間力を育む 住環境 ～ 個＋公共＋地域文化の繋がり 和を成す幼稚園 自然の中の異文化交流 難民施設への学校建築の提案 摩耶山ロープウェー「星の駅」建替え計画	長田 克巳 織田 浩成 角田 里紗 片岡 康輔	6 7
●	一粒の種 ～ 半田市再生への第一歩 ～ 市庁舎建替計画 ～ 気軽に立ち寄れる市庁舎へ～ The house in the forest ― 暮らしに山と木を取り込む拠点をつくる ― 大きな自然のある高齢者福祉施設 外の合間の保育園 現代社会の図書館を考える ～ その機能から ～ 深谷クラインガルテン ～ 生産者と消費者の心がつながるところ ～ Kayama Island Resort & Spa ～ 大いなる自然と豊かな水に囲まれて 自分をとりもどす リゾート空間 ～ 八丁味噌街道 ～ 東海道の賑わいとともに ～ 家族の絆を深める ～ レストランのないリゾートホテル計画 ～	加藤 弥保 川合 幸江 河合 礼子 河原 峰雄 木村 真紀 幸田 詩乃 斉藤 友美 酒井 美和 佐藤 みゆき 塩入 基臣 塩澤 真実子 篠田 浩司 篠原 香織 島崎 敏文	8 9
●	パブルの法則―大地を五感で感じる家 ハービーリタイアメントハウス 解放的集合住宅の一考察 神聖な場所の形 ― 小さな神社と集合住宅の提案 ― 学びの郷 ～三郷中央駅前学習複合施設～ 高齢者がいきいき暮らすためのニュータウン再生計画 ～「つながる」っていきやすい～ ゆるくまとまる集合住宅 ストレスケアクリニック ～癒しと回復～ 故郷の記憶 楽農のスズメ ― 建築的都市農園の提案 ― 人間と木との対話 ～盆栽の世界～ 江戸前から未来を ～日本食の原点は「江戸」にあり～ 水に浮くホテル 国分寺美術館・ほこぼこの道 地域のごみ再資源化複合施設 足を運びたくなる図書館 G.O TOWN CENTER ～再開発が進む五反田、大崎の中心にある憩いの場～ 遊色荘 子どもがのびのび遊べる低層集合住宅	酒井 美和 佐藤 みゆき 塩入 基臣 塩澤 真実子 篠田 浩司 篠原 香織 島崎 敏文 鈴木 紀夫 鈴木 由貴子 関矢 浩丈 高橋 謙一 高橋 峰典 田久保 嘉 竹内 直樹 田鶴 大道 谷口 裕子	10 11
●	高齢者と暮らすコレクティブ・ハウス ― 住み慣れた土地に最後まで助け合いながら住まう ― お茶のチカラ～Force of tea～ 魅力ある街づくり 光と風のアトリエ(和のかたち) 町田市市庁舎の設計 眺望と緑感じ自然の風邪に触れ合えるキャンプ場 私の子育て・あなたの子育て・みんな子育て Kids+Picture Book ～えほん図書館のある幼稚園～ 江戸文化を発信する「ASAKUSA UKIYO MUSEUM」 どんぐりの実から、自然に思いを馳せる 身近な自然から生物多様性を実感する 横浜市栄図書館移築計画 ～駅前図書館としての「場」をつくる～ シキナー・プレイス ～志木市役所および周辺の再利用プラン～ "Sin" 古典文学館の設計 豊川海軍工廠跡地メモリアルパーク ～未来へつむぐ～ 生きるオフィス CHEERで街を元気にする Museum・Museum・Museum (波紋という影響力を、形にしたい) 浮揚建築物 HYPERION お茶の水物語 ～駅前広場～ 植木・花卉園芸に触れ合う憩いの場 サブテーマ 植木・花卉を気軽に触れ合う individualistic apartment 遊び場は野外から室内へ、子供の遊び場と子育て支援 こどもの遊び総合センターの計画 Pacific Resort Tokyo BAY ―entertainment & convention 「空想のTerminal ―倉敷における都市計画シミュレーション―」倉敷駅、及びその周辺の再生計画 文脈を記憶する路地 ～東京・神楽坂路地～ 生涯スポーツと食育の融合 ～IBARAKI ACTIVE SPACE～ ライフサイクルの提案 女子留学生会館 森呼吸(しんこきゅう)するファサード ―都市近郊の休耕田に建つ緑のショッピングモール― 戦争／平和の家 雪の集合住宅まつづくり 苦雪～克雪～寒雪へ if 山と川に囲まれてより快適に暮らせる集合住宅 ついでに美術館 廃校のRevitalization 期待～セントラルスクエアの再生～ 錦糸町駅前の生涯学習「交流・発見・創造」施設	谷村 恵里子 土田 佳子 戸田 好政 中浦 貴太 中山 仁美 長柄 和美 西尾 静香 西岡 育実 萩原 正朗 橋本 昌宏 林 真入 舟根 崇光 舟橋 有紀 堀田 紀亮 前田 香織 増田 康子 三浦 隆光 宮本 麻衣子 森 駿平 森島 篤之 八木 進 谷津 智里 八戸木 香 山口 博美 山田 健統 雪田 裕泰 吉岡 直己 吉田 修子 吉原 三貴 若木 嘉浩 渡邊 華奈 渡辺 幸治	12 13 14 15 16 17 18 19

model & work panel



concept

名古屋市中区の名鉄上飯田駅周辺は、名鉄と市営地下鉄を結ぶ上飯田連絡線が開通して以来、人の流れが減少してやや寂れた感がある。そこで、人が自然に集まる上飯田バスターミナルにスポットをあて、その上に建つ老朽化した市営住宅と隣地の上飯田福祉会館・児童館を含めた一帯を建て替え、これまで通過していた人々が立ち寄りやすい商業空間や、趣味などを通して地域住民が交流できる生涯学習センターを併設して活気を取り戻すことを考えた。また市営住宅については多様化する住宅ニーズに対応する住戸と街中の居住地としての快適性を追求する。

comment

川の流れの中には水が留まる場所がある。そこには形態的な特徴がある。つまり、「かたち」が、流れを変えている。そして、都市の中の人の流れも「かたち」によって変化が生まれるはずである。それも鳥瞰的な、或いは地図上で表現される形態だけではなく、街を歩く人々の視線で感じることができる形態が、人を立ち止まらせ、あるいは振り返らせ、その歩みの速度と方向を変えることができる。この作品はそんな造形力をもっている。

(担当教員 丹羽 哲矢)

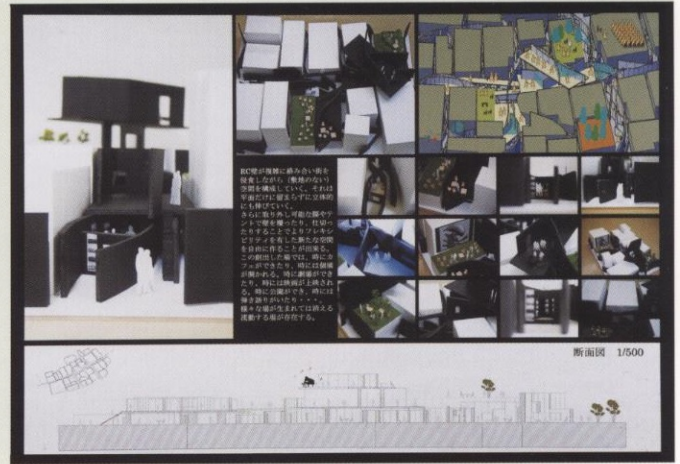
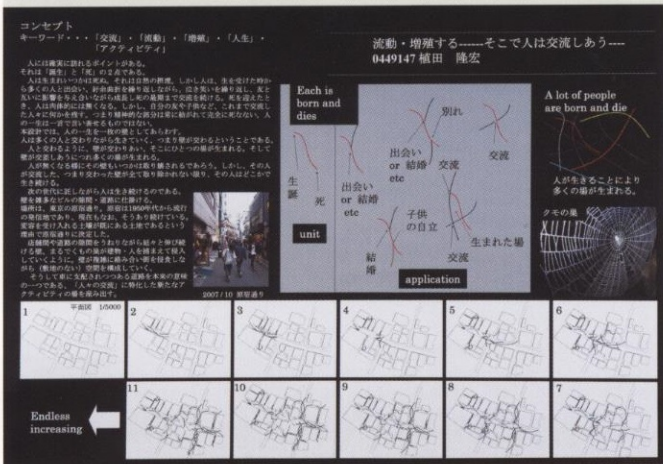
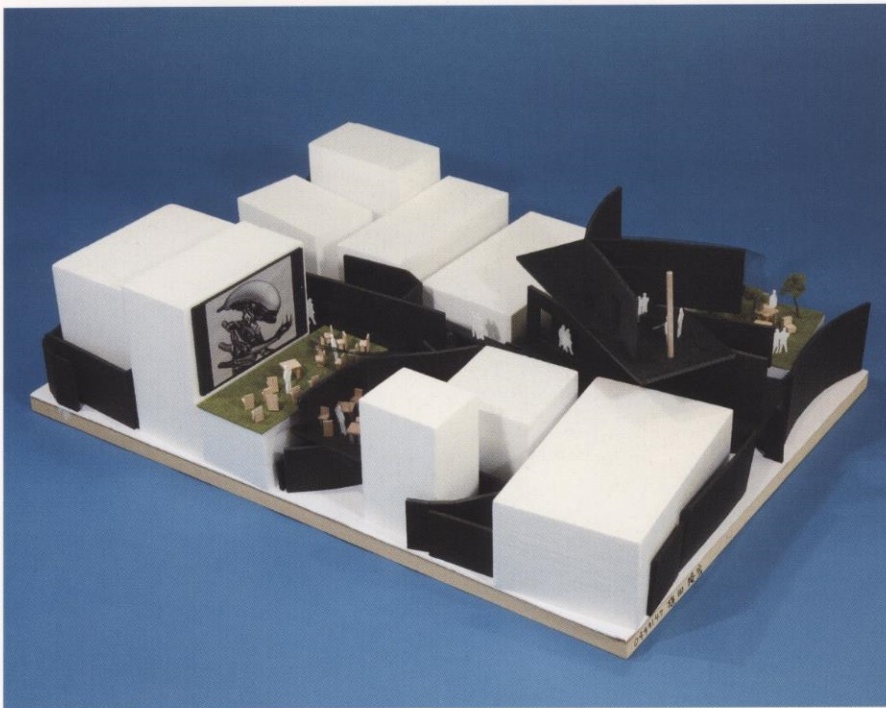
Michiyoliduka

飯塚 通代

愛知県在住

「建築」という言葉を聴くとなんとなく気になりながら文系の大学を卒業、勉強したことと無関係な会社に就職し、「何か違う」と感じる日々。やがてCADスクールの広告を見て、CADが建築への近道と思い、勉強したものの「実務経験」の壁に阻まれ、念願の建築CADオペレーターになかなかならず、それならば知識をつけようと思いつけたのが通信教育でした。でも次第に建築CADオペレーターに留まらず、自分の構想したものを形にしたいと野望を抱くようになりました。今後は早く仕事を見つけて設計経験を積み、近い目標としては2級建築士の資格取得に向けて頑張ります。

model & work panel



concept

人の一生を一枚の壁としてあらわす。人は多くの人と交わりながら生きていく、つまり、壁が変わるということである。人と交わるように、壁が変わりあい、そこに新たな場が生まれる。人が無くなる様にその壁もいつかは取り壊されるであろう。しかし、その人が交流した、つまり交わった壁が全て取り除かれないう限り、その人はどこかで生き続ける。次の世代に託しながら人は生き続けるのである。原宿通りの店舗や道路の隙間をうねりながら延々と伸び続ける壁、まるでくもの巣が建物・人を捕まえて侵入していくように。壁が複雑に絡み合い街を侵食しながら(敷地のない)空間を構成していく。そうして車に支配されつつある道路を本来の意味の一つである、「人々の交流」に特化した新たなアクティビティの場を産み出す。

comment

本来建築には土地(敷地)が存在する。しかしこの作品では特定の敷地はなく、ビルとビルの間、屋上、狭い路地といった都市の隙間に、壁が伸び続けることで、侵食し続ける空間を表現している。都市の持つ混沌とした雑踏から発生する新しい可能性を建築空間としても上手く表現し、都市における建築の可能性を感じさせる作品である。(担当教員 木下 太)

Takahiro Ueda

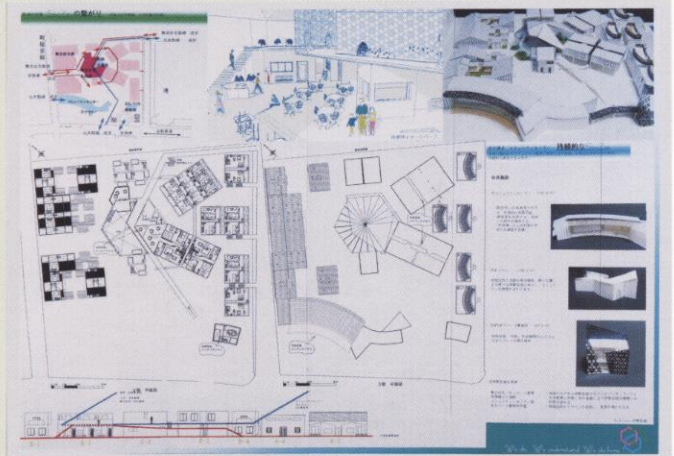
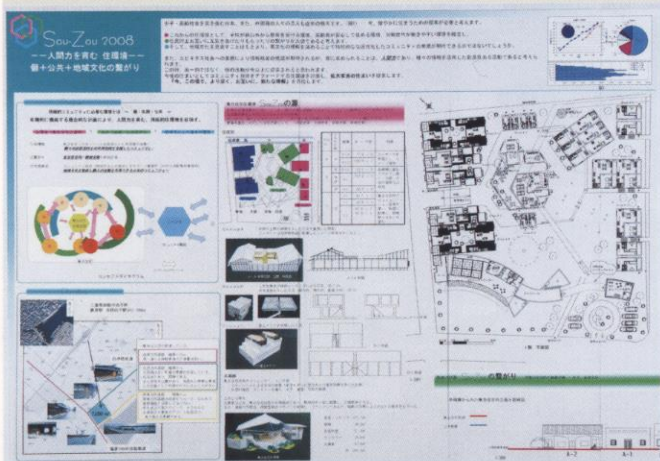
植田 隆宏

香川県在住



元の大学・大学院では、化学を専攻していました。しかし、大学を選ぶ際に化学を選ぶか建築を選ぶかを悩んだ経緯があり、大学院を卒業して就職してからまた建築の勉強をしたくなったのが、入学の主な理由です。今後は現在の職を続けたままで(人生どうなるかわからないですが、)2級建築士の資格を取ろうと思っています。

model & work panel



concept

少子・高齢社会、外国籍の人々の流入も活発な近年。子供が親以外から教育を受ける環境、高齢者が安心して住める環境、労働世代が働きやすい環境の確立が必要と考えます。また、ユビキタス社会で真に求められることは創造性ある活動を支える人間力と考えます。また、地域文化や異文化の理解を深めることで持続的なコミュニティの発展が期待できるのではないかと。コミュニティ自体をアフォードする住環境として拡大家族の住まいを提案し、有機的に機能する複合計画により、人間力を育む持続的住環境を目指しました。

1. 住環境として、多様性、交流を重視した住居およびコモンミールの運用を前提とした共用棟を計画。
2. 繋がりとして、集合住宅内と公共との交錯動線を意識した敷地動線計画。
3. 文化接点として、地域文化や個人の活動を共用できる公共施設としてコミュニティセンター、ギャラリーおよびまちづくり事務所を計画しました。

comment

都市には力の生まれる場所がある。そのような場では、都市の流れと地形的な特徴がぶつかり、闘ぎ合っていることがある。街道筋と港湾の結節点という都市的な力を孕んだ場を敷地に選んだこの作品では、敷地を囲う異なる特徴を持つ街路ごとに違った表情が与えられ、建築の全貌をなかなか露にしない。しかし、だからこそ様々な人々がそこに惹かれ集まり、異質なものが出会うきっかけが生まれる。それはまさに都市ならではの出会いであり、この作品の魅力である。

(担当教員 丹羽 哲矢)

Katsumi Osada

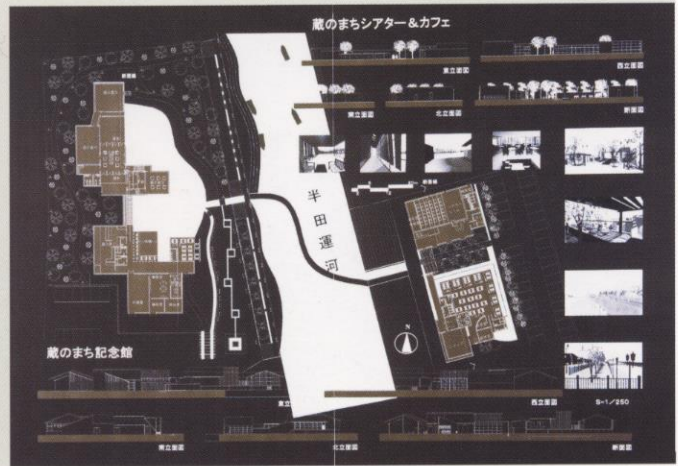
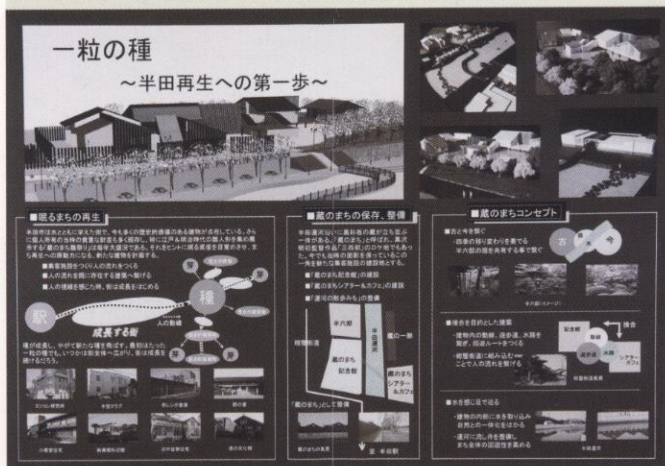
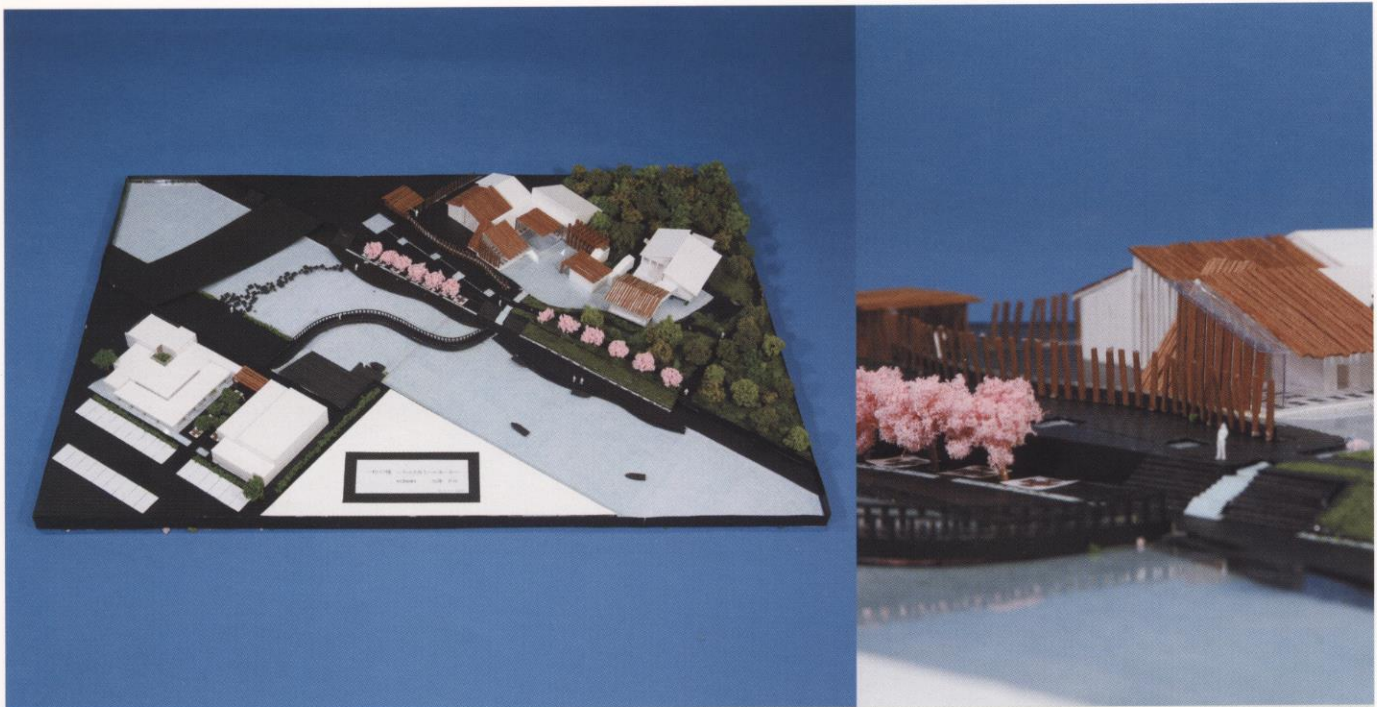
長田 克巳

三重県在住



いつかはセルフビルドを夢に日曜大工で机やテーブルの作製を行っていたとき、目にした優待大の電車吊広告をきっかけに、卒業できるかどうかとの不安の中、建築の世界に入りました。通信教育部では、きっかけや将来の夢が様々な皆と共にアウトプットする喜びと苦しみ？を体験してきました。卒業研究では、敷地調査や資料収集、建築事務所の訪問、プレゼン手段の模索をしながら、何よりもやり遂げることの大切さを教えて頂きました。建築の裾野の広さと奥行きを認識できた今、心地よい空間構成とは何かを模索し、セルフデザイン&ビルドを目標に勉強していきたいと思っています。まずは、2級建築士にチャレンジです。

model & work panel



concept

半田市は水とともに栄えた町で、多くの歴史的建築物が現存しています。しかしひとつひとつに人を呼ぶ力が無いのが現状なので、今回集客施設として「記念館」「シアター」「カフェ」を整備する事にしました。敷地として選んだのは「蔵のまち」と呼ばれる、黒い杉板張りの蔵が現存する一体です。ここは黒澤明初監督作品「三四郎」のロケ地で、さらに「半六郎」に隣接しておりその庭を共有する事で歴史的建築物と新しい建物の融合を試みました。「紺屋街道」と呼ばれる昔ながらの町並みが残る路地にも隣接しており、新しく建設する施設による集客によって、まちを回遊する路地が活性化し「私たちも何かしなくては!」と思わせるまちづくりを目指しました。

comment

まちがつまらなくなっている。それはまちの細やかなヒダが失われたからではないかとの作品は問いかけている。まちに暮らす者の視点から、暮らしの楽しみを再生するためにデザインのはたす役割は大きい。その解答のひとつがここに提示されている。

(担当教員 宮武 仁)

M i h o K a t o u

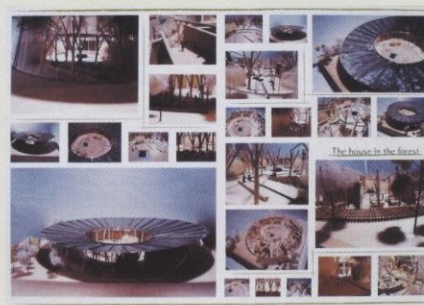
加藤 弥保

愛知県在住



21歳で学生結婚しその後はずっと専業主婦。2人の子供も中学に上がり子育てもゴールが見えてきました。そろそろ外の世界を知りたいと思い、就職を真面目に考えるように…。しかし全く就職経験が無い為自分に自信が持てず、以前から興味があった建築士の資格を取るべく大学に入学しました。家庭と学業の両立は確かに大変でしたが、同じ志を持つ仲間や先生方に支えられながら、無事卒業する事が出来ました。卒業後は住宅建設会社への就職が決まっており、いよいよ目標だった社会人デビューです。この2年間学んだ事を基礎に常に向上心をもって新たなスタートを切りたいと思っています。

model & work panel



concept

「荒廃していく山を再生させる手立てとして建築で何ができるのか?」より身近な視点で、暮らしに森と木を取り込む拠点・装置としての建築を提案します。日本は「森の国」と呼ばれているように森林の生育に恵まれた国です。果たしてその森は豊かな森でしょうか? 現実には自国の森林の木を使わず、輸入材に頼っているのが現状であり、森は混みすぎ、荒れています。山々に木があるのが当たり前で、「伐るのがいいのか、悪いのか」という問題があることさえも私達は意識していません。「森の家」は、こうした荒れた森林再生に向けての拠点として、自国の森と木を意識できる自然体験施設です。

comment

設計者自身が住む山梨県の山林で日々感じている「荒廃していく山・自然」をテーマとして、雑木林を建築デザインの主要素として再利用するアイデアの提示を試みている。自身がステンドグラス作家であり、その視点から造形、鉄を芯材として、その周囲を木材で包み込む方法・デザインの着想は面白い。(担当教員 伊藤 潤一)

Sachie Kawai

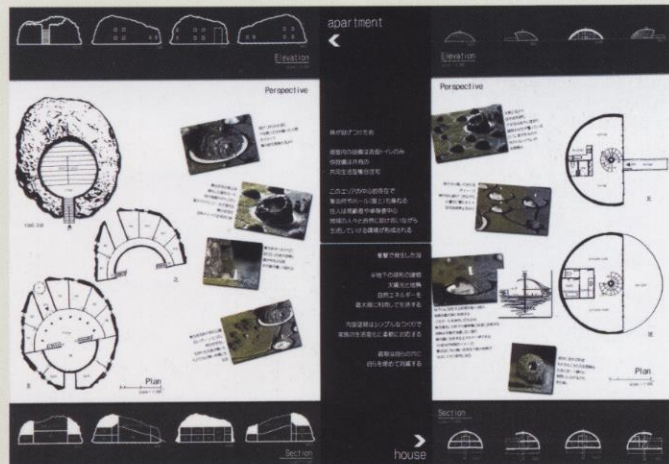
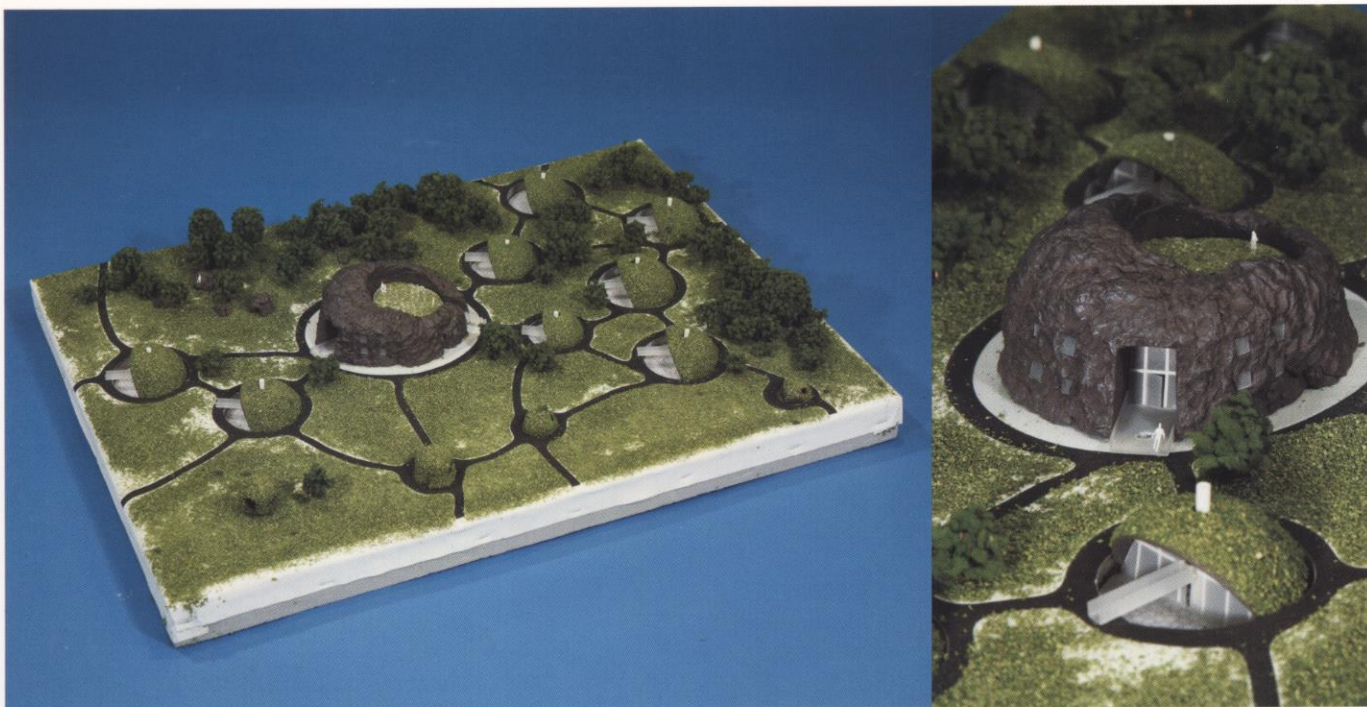
川合 幸江

山梨県在住



この学校に入学したのは、最初は建築を勉強してみようかという漠然とした気持ちからでした。学んでいくうちにその奥深さに魅せられ、もっと建築を見たい、知りたいという思いで2年間があっという間に過ぎました。今、ようやく建築の世界の扉が開かれ、その中に一歩足を踏み入れたところでしょうか。これから更に勉強をかさねて願わくはこの先、建築の道を歩いて行けたらと思っています。

model & work panel



concept

地球は荒廃していた。創造神は激怒し、岩を投げつけた。地球上のすべては破壊され、衝撃で地球は泡をふいた…。地球温暖化問題は益々深刻化。防止策として開発される様々な技術も、人類が現在の生き方を変換しない限り「焼け石に水」であろう。我々の根本的意識改革なくして、この問題の解決は不可能だ。大地に身をよせて、五感を研ぎ澄ます。自然の言葉を学び、自然と対話する。樹があり、雨が降り、風が吹く。土があり、水があり、動物がいて、植物が育つ。光と影があり、あらゆる色彩がある…。こういう事に豊かさを感じられる様になって、初めて問題は解決可能となる。

comment

20世紀が残した負の遺産である「環境の限界」に対して、技術主義的アプローチではなく、人の感性のあり方にこそ解答の鍵があると考えている点に注目したい。そのスタンス故に「デザイン」の有効性が再生される可能性を感じる。表現がすばらしく「ポスター」としても成立している。
(担当教員 宮武 仁)

M i w a S a k a i

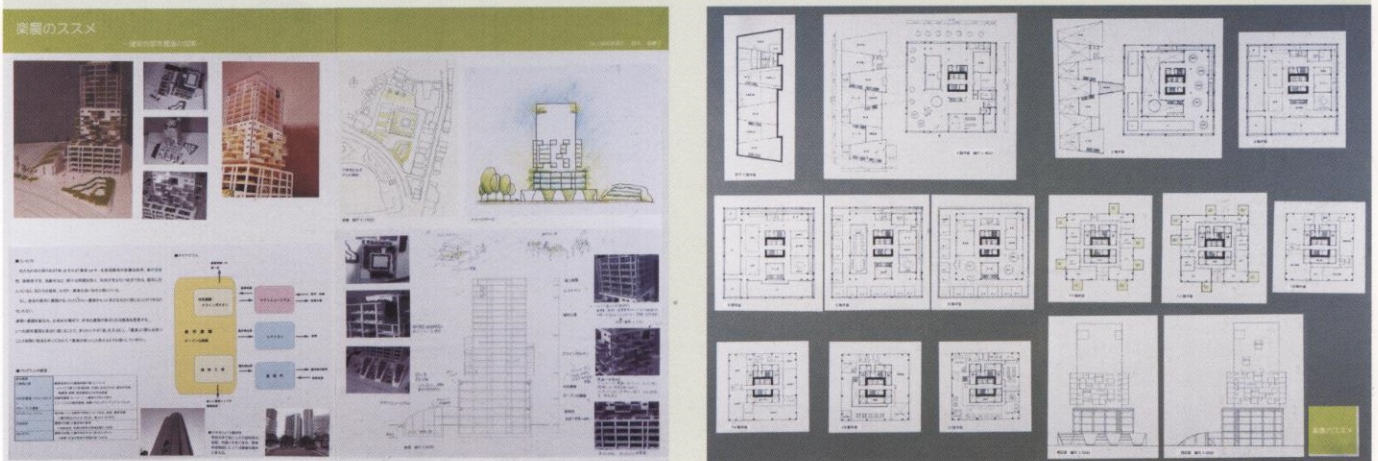
酒井 美和

愛知県名古屋市在住



空間が好きなんです。自宅や学校の奥に見知らぬ空間が…幼い頃よくこんな夢を見て興奮しました。兄とよく作った椅子と毛布の基地、いつもの部屋の中なのに、椅子の背から覗く新鮮な景色になんだかワクワクしたものでした。旅好き転じて飛行機の客室乗務員に→日本の家も素敵にしたいと思い立ちインテリアの道へ→部屋の価値は窓が切り取る景色や陰影が作り出す空間で決まる、そう気づいて建築を勉強したくなったのです。ずいぶん遠回りをしましたが、この学校との出会いは瞬間的でした。インターネット検索で最初に目の前に現れたページがASUだったのです！今では亡父（建築家）からのプレゼント（司令?）だったのかも、と感謝しております。

model & work panel



concept

私たちの命の源である「食」を支える「農業」は今、先進国最低の食糧自給率、食の安全性、後継者不足、高齢化など、様々な問題を抱え、将来が見えない状況である。都市に住んでいると、私たちは普段、なぜか、農業を遠い存在と感じている。もし、都会の真中に農園があったとしたら—農業をもっと身近なものに感じることができるかもしれない。建築に農園を組み込み、立体的な構成で、未来の農業の拠点となる施設を提案する。いつも都市農園を身近に感じることで、多くの人々が「食」を大切にし、「農業」に関心を持つことで実際に野菜を作ってみたり、「農業は楽しい」と思えるような場にしていきたい。

comment

現代農業が抱える危機的な状況を、人口が集中する都市においてプレゼンテーションすることによって啓蒙する。この一見突飛的なアイデアを、六本木に高層ビルを建てるという大胆なプログラムで解き、さらに見事に建築化しています。明快な方向性が、テーマーコンセプトデザインへと貫かれているために、表現としての強い力が生まれているのです。

(担当教員 久原 裕)

Yukiko Suzuki

鈴木 由貴子

千葉県在住

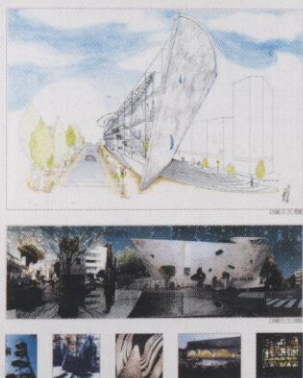
子育てや親の介護等で仕事を中断していた私にとって、自分のペースで勉強することができること、建築士の資格取得のために編入学しました。はじめは要領の悪さからレポート提出が進まず、卒業まで何年かかることやら・・・と不安になりました。しかし、スクーリングで「建築を学びたい」という共通点を持つ仲間に出会うことができ、元気をもらおうと同時に、抱えていた不安を払拭することができました。卒業研究を終えた今、いろいろなことに興味を持ち、日々勉強が必要であると感じています。「建築は奥が深い！」コレ、実感です。

model & work panel



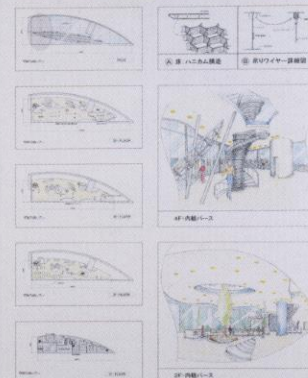
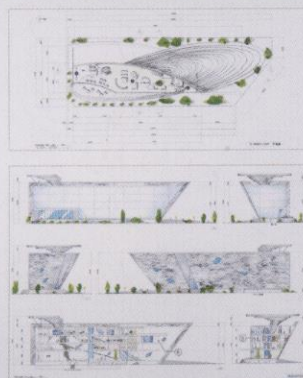
国分寺美術館 ほこぼこの道

学級番号 0420067 高橋 峰典 PART・I



国分寺美術館 ほこぼこの道

学級番号 0420067 高橋 峰典 PART・II



concept

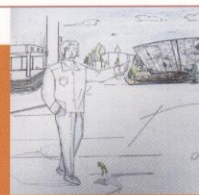
東京都国分寺市は歴史や遺跡で知られる町であるが、同時にそれらを結ぶ道も大切にされている。お鷹の道や真姿の池遊歩道、多摩蘭坂遺跡の多摩蘭坂、古代の東山道、旧鎌倉街道など、遠い歴史の中で道は開かれ、又、時代を経て人々は環境の共生の上に新たな道を育んできたのである。そして、このような国分寺の道のエッセンスを栄養素として取り入れ咀嚼されたとき、まるで食道が臓器に変貌を遂げるように建築は姿を現すのである。更に、このような国分寺の道にこの建築は通じ、その一部になる事でほこぼこの道は完成するのである。そして、これこそが「国分寺の道」であり、ほのぼのとほこぼこと歩くほこぼこの道である。

comment

設定した地域の歴史性や環境を読み解き「国分寺の道」の終着点（ここでは「節」として表現された）と美術館として建築表現された作品である。高橋君らしい夢ある素直な心を「自分らしい表現とは」を追求した造形であるといえよう。ガラスのダイナミック空間をトラス構造で解決しつつ、細部でのきめ細かな空間表現が評価された。（担当教員 白 濱 力）

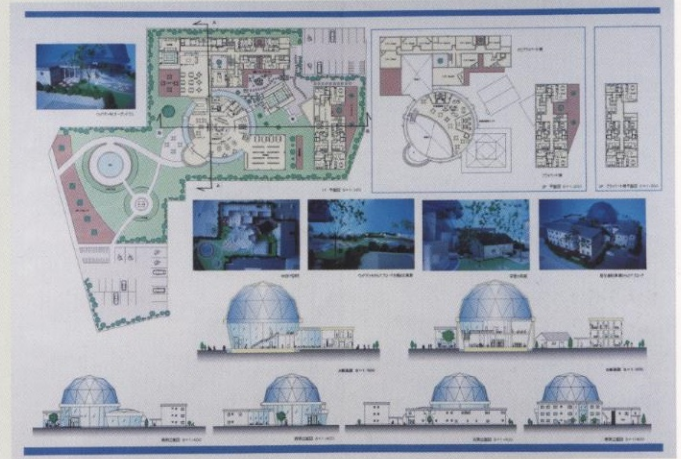
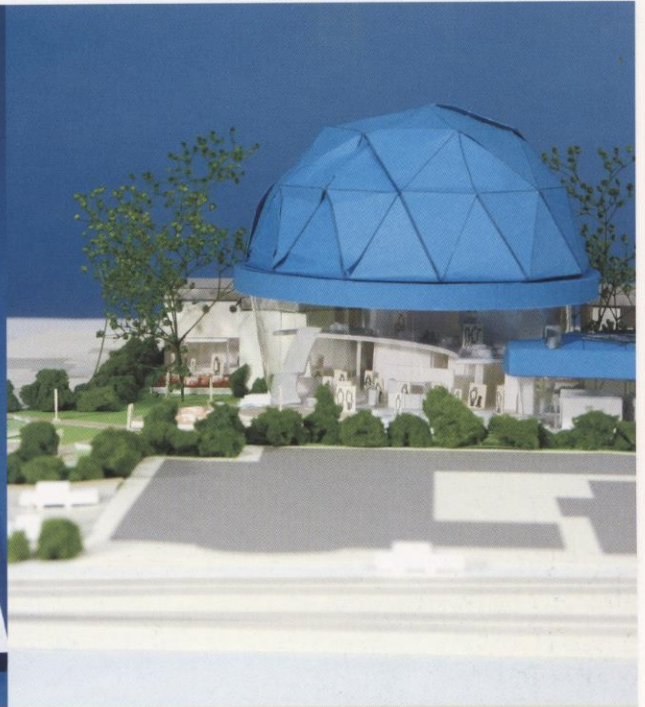
MinenoriTakahashi

高橋 峰典
東京都国分寺市在住



ある朝、目を覚ますと机の上に赤茶けた古新聞。そこには、デザインとか造形といった文字が汚れた紙面とは裏腹に新鮮に、まだ眠い目に心地よく沁み入ってきた。それが、愛知産業大学、通信教育部との出会いであり、寝ぼけた目を覚まさせるきっかけともなった。そして、この古新聞の縁は後4年間の私の大学生活へ続くことになった。そこでの学習は、物事の見方や造形、デザインに至まで自分の分からないことを見つけ、それを学ぶ。それは自分の表現の追及であったと言える。この春を迎え、これを機に新たに実践の社会に向かう。卒業である。夢の様な学生生活よ、さようなら。後に古新聞は冬の間のストーブの敷物だったと知った。

model & work panel



concept

近年、シニア世代のライフスタイルは多様化し、悠々自適なセカンドライフを送る人は増加傾向にある。しかし、一方では、地方における過疎化・高齢化の進行や、老老介護、独居老人などの問題が深刻化している。群馬県吉井町は、人口約2万5千人、気候温暖で自然に恵まれた町である。本研究では、駅前にある本区画を対象とし、高齢者と若い世代とが交流しながら仲良く暮らすコレクティブハウスを設計する。ハウスは、共用エリアを介して、居住していない地域住民も気軽に立ち寄り、居住者と交流をもてる計画を特徴としている。さらに、近隣に既存する診療所と介護老人保健施設の複合施設との連携で、今までにない地域福祉交流型コレクティブハウスを目指す。

comment

プログラムが入念に研究された作品である。高齢者の生活サポートを、「交流」という形でコレクティブハウス内の若者全体、そして、地域として行おうと考えている点は注目できる。一方で、高齢者の心身の各段階におけるサポートを周辺診療所、介護保険施設と連携することで、建築の自由性を保持し、デザインとの共存を図ろうとしている。

(担当教員 伊藤 潤一)

Eriko Tanimura

谷村 恵里子

神奈川県横浜市在住

きっかけは、失業時に職業訓練校の住宅リフォーム科で6ヶ月間、建築関係の基本的な知識やCAD(JW-CAD、AutoCAD)を教えて貰ったことでした。そこで学ぼうと、もっと体系的に建築のことを勉強したい、CADは使わなきゃ忘れちゃう、2級建築士の資格も取りたい、などと考えるようになりました。2年のつもりで入りましたが、求年度も本校のお世話になります。芸術系の課題が残っているので、その課題をクリアし、自分に足りない技術を少しでも身につけたいと思っています。将来的には、何か一つ「これだ!」と自信のある事を見つけ、その切り口から建築の仕事に携わりたいです。

model & work panel



concept

浅草は、江戸の豊かな歴史、伝統、文化を有し、四季折々の多彩な祭事に、日本だけでなく世界各地から多くの人が訪れ、日々その姿は変化している。(年間観光客 約1970万人。さらに、2011年 第2東京タワーの開業初年度観光予想人数-約500万人と推定されている。)しかし、現在の浅草は、本来もっていたまちの回遊性を喪失してしまった為に、訪れた人々がゆったりとまちを楽しむことが出来なくなっている問題点がある。本提案は、国際観光都市「浅草」の更なる発展に、「粋」な江戸文化の復活と、まちの回遊性を取り戻す為の文化拠点の1つとして、「浮世絵美術館」を設計する。

comment

建築を単体として機能させるのではなく、街の回遊性を生み出す一つの歯車として捉え、美術館自身が、周囲施設と呼応しあうことが重要であるという発想は面白い。「粋」というキーワードを元に、周囲の建築群が調査・研究され、施設の位置を決定している。デザインも周囲の環境に配慮され、低層にボリュームを絞り込みながら、河岸に接した施設として魅力あるものになっている。
(担当教員 伊藤 潤一)

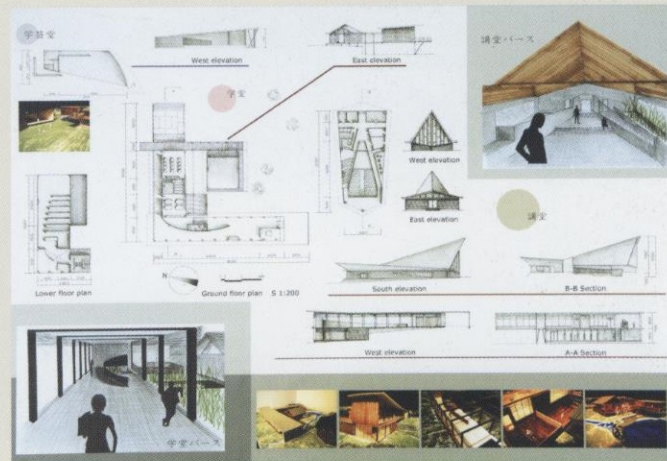
Ikumi Nishioka

西岡 育実

東京都在住

家具・インテリアが大好きで夫婦で無垢の家具・雑貨のお店を開いていますが、もう少し広い視野で物事を考えたいと思い、建築の勉強を始めました。初めは、普段の仕事は平面図で動線やレイアウトを考えていくので、3次元で考えなければいけない建築の設計はとても苦手でした。ゼミで、勉強するうちに建築の奥深さと難しさ、考え抜いて出す答えの楽しさ、たくさんの方を教えて頂きました。ゼミの先生からは特に、自分の伝えたいイメージを言葉・図面・パース・模型で表現する事の大切さを教えて頂きました。今後は、物事の答えを出す時に、卒業研究で学んだ側面だけで答えを出す多面的に考え答えを出していきたいと思っています。生活に密着しているインテリアと社会に密着している建築どちらも大好きなので、インテリアと建築の仕事に今後も少しでも関わったら幸せだと思っています。

model & work panel



concept

現在狭義的、受動的となっている文学を、広義的（文房具、書道、茶、音楽など）に捉えることのできる空間を構築し、その関係のイメージを「Sin」というキーワードで表現し、「新」だけではない、「心」「親」「進」「真」「深」など、訪れた者が各々感じてもらえればというコンセプトから、Sin古典文学館とした。文学という概念の無かった「古典」にスポットをあて、先人の感情、美意識及び自国の民族性を学ぶ事は重要である。古典文学を通じて自己実現と共に、繋がり、交流し、発展していく、人と文学のこれからの形を築く、能動的な古典文学館を計画する。

comment

北海道の自然豊かな敷地を生かした、伸びやかでダイナミックな造形が魅力的な作品である。屋根のデザインがそれぞれの建物に個性を与え、伸びやかなプランニングにシャープさを印象付ける。「sin」というキーワードが3つの施設の詩的コンセプトとなっており、文学館という施設を能動的な建築と位置づけようと試みている。

（担当教員 伊藤 潤一）

TakamitsuFunane

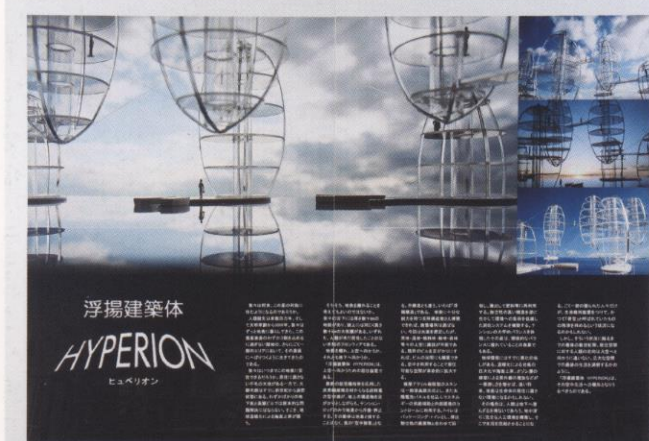
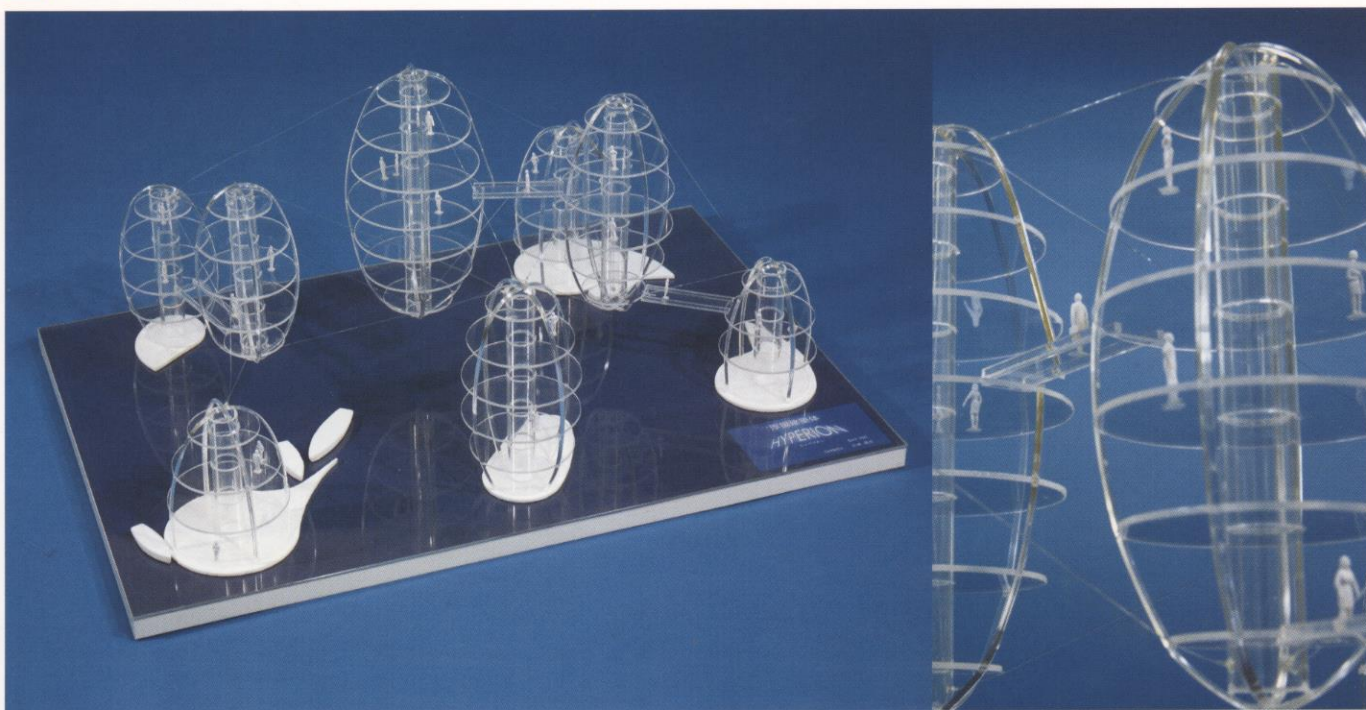
舟根 崇光

北海道在住



「造形」に興味を持ち、その全てを包括する建築を学びたいと思い入学しました。ゼロから学んでいくうちに建築の奥深さを知り、そして楽しさを知る事が出来ました。卒業研究において学べた事は「制約」です。自分がこうしたいからする、では成立しません。造る側と使う側がいて、風土や環境も考慮しなければならない。そのような様々な制約の中で建築が存在する事を知り、当初はやりにくいと感じましたが、そうではなく制約があるからこそ面白く、意義のある建築となりえると考え様になりました。まだ建築の入口しか見えていませんが、自分の建築、これからの建築を探索していければと考えています。

model & work panel



concept

我々はいままでこの地表に安住できるだろうか。都市部の過密、温暖化による天候不順と海面上昇…。一方、我々の足下には地殻があり、頭上には大気圏がある。いずれも、人類が未だ居住したことのない未知のフロンティアである。地表を離れ、上空へ向かうか、それとも地下へ向かうか。

「浮揚建築体 HYPERION」は、上空へ向かうための居住装置である。炭素繊維複合材からなる超軽量の空中棟が、地上の構造物を足がかりとしながらも、テンション・ロッドのみで地表から浮揚・静止する。その躯体は地表と接することなく、真の「空中建築」となる。吊橋造とも違う、いわば「浮揚構造」である。地表に十分な耐力を持つ支持構造物さえ構築できれば、建築場所は選ばない。水面・荒地・湿地・傾斜地・緑地・森林等々の上空に建設が可能である。既存のビルを足がかりにすれば、ビルの谷間にも構築できる。空中を利用することで居住可能な空間が革命的に拡大することだろう。

comment

居住装置を浮遊させ緊張感を与えるテングリティ構造。この構造システムを名付けたB.フラーの理念に通じるように、空想的で構造・構法に偏った特異な夢のようにも見えるこの作品に、作者は、近未来の環境への深い想いを込めた。特定の場所に縛られず、地上を離れた免震性の高い「浮揚建築体」の提案は、かつてのダイマキシオンハウスを髣髴させ、あらためて建築技術の持つ豊かで楽しい可能性を考える手がかりを与えてくれる。

(担当教員 松本 篤)

Takamitsu Miura

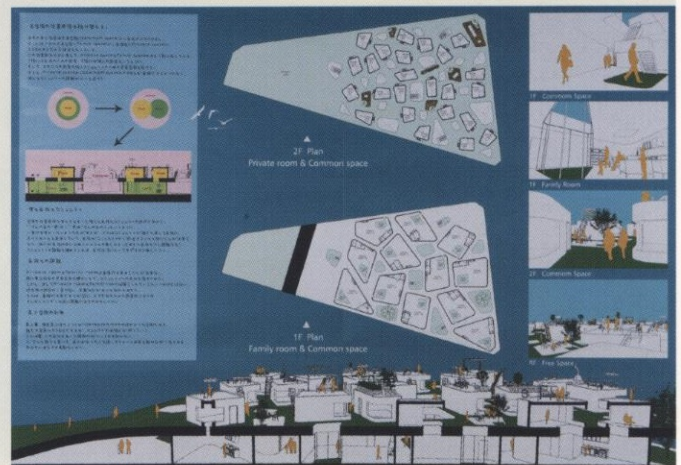
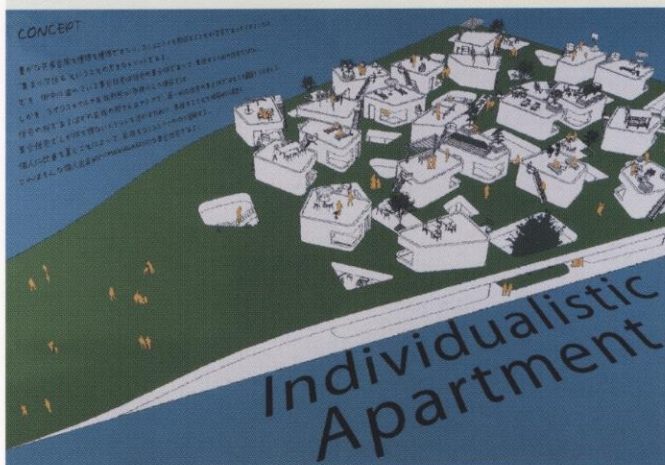
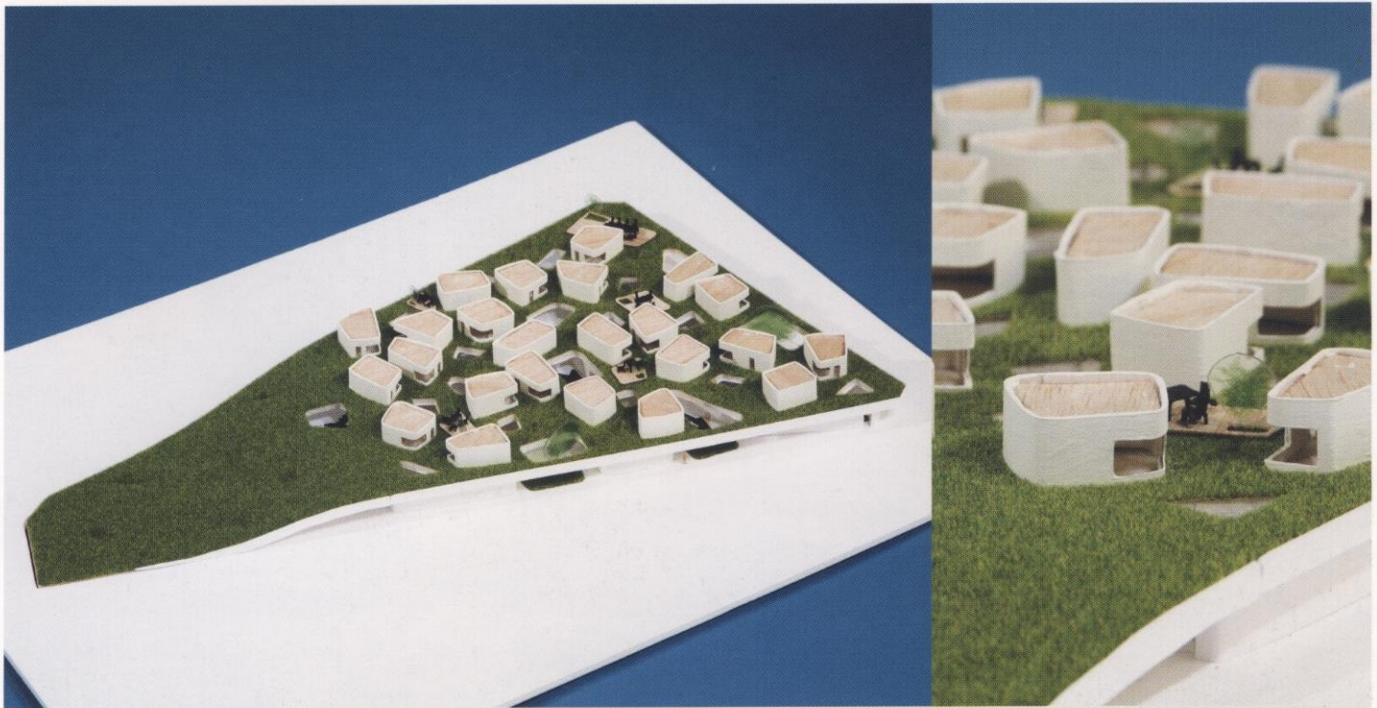
三浦 隆光

岡山県瀬戸内市在住



小学校に上がる前、ブロックのおもちゃで、毎日城を作って遊んでいた。白亜の三層天守を作ったが、入母屋は幼児には難しく、寄せ棟でこまかした。本当は五層にしたかったが、ブロックが足りなかった。建築か、歴史か。幼児の前には二筋の道が開けていた。最初を買ってもらった本が「とよみでよし」だったためにいつい歴史学の道に進んだが、未来は紙一重だったのだ。40年後、ASUと出会い、あらためて建築を学ぶ機会を得た。前の大学で得たものは現在の妻と教員免許くらいだったが、ASUではいろいろなものを得たような気がする。人生を2回味わったようで、こんなに幸せなことではない。今後は、日本の気候風土に合った美しい住宅を設計してみたいと思う。そして最期は、自ら建てた歴先の草庵で往生するのが夢である。

model & work panel



concept

豊かな共有空間を獲得できたり、コミュニティを形成することが容易であったりすることは、“集まって住む”ということの大きなメリットである。でも、町中に溢れている集合住宅は住宅の集合体であって、集住するための住宅ではない。集合住宅でしか持ち得ないメリットを活かすために、集住することを積極的に肯定し、個人に比重を置くことによって、家族をコミュニティの中に溶解する。これはそんな個人主義的(=individualistic)な集合住宅である。

comment

日本の住宅は家族が一単位となっていることが多い。しかしこの作品では、個人を一単位としてコミュニティを形成するための集合住宅を提案している。個を中心とし階層により家族との関わりや外部との関わりが、個からダイレクトに出来るよう計画されている。現代の集合住宅が失ったコミュニティの復活と、個を主とした新しい住まい方の提案を、建築空間として表現している。
(担当教員 木下 太)

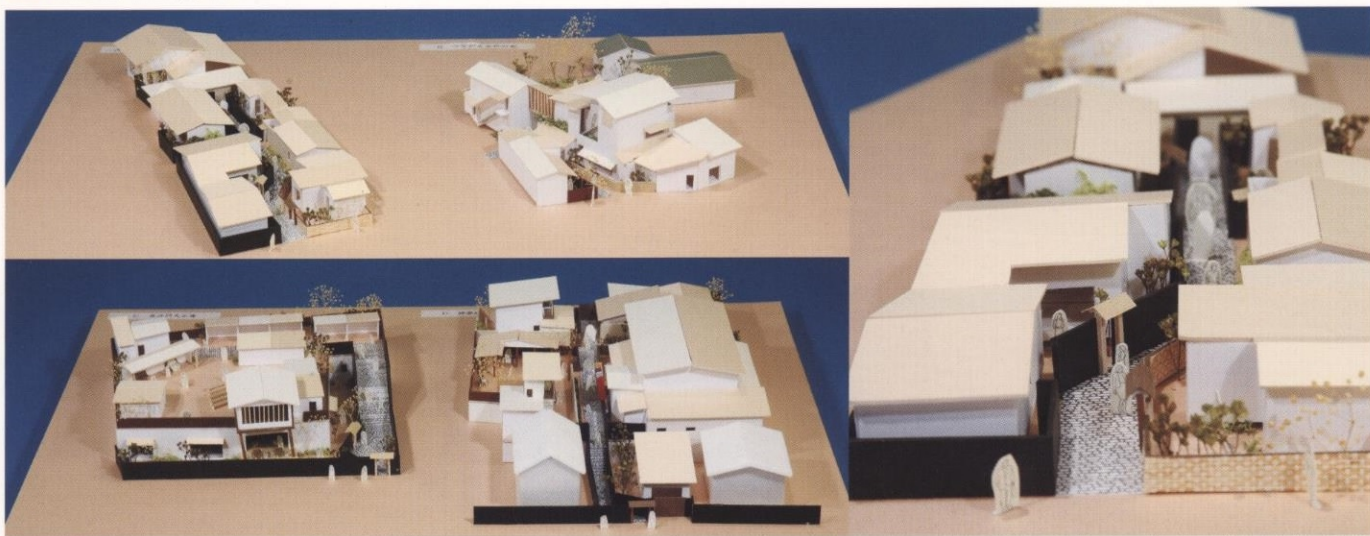
Syunpei Mori

森 峻平

名古屋市在住

将来何かものを作る仕事に携わりたいと考え、働きながらも勉強でき、かつ卒業後には資格を取得することが可能になるということだったので、この学校の通信教育で建築を学ぶことにしました。卒業後には、二級建築士も取得するつもりで、現在は資格試験の勉強中です。

model & work panel



concept

粋なまち、神楽坂。路地と坂のまち、神楽坂。神楽坂には明治～昭和初期にかけて多くの文士・文化人が暮らし、毘沙門天の縁日とともに花柳界が栄え、日本の近代文化を影で支えた。それが現在、高齢化による商店街の世代交代、場所的ポテンシャルによる高層化の波にもまれている。神楽坂は第二次世界大戦でほぼ全焼、現在のまちは戦後つくられたため「保存」の対象にはなり難い。それでも、江戸時代から変わらない町割りを縫う「道」がまちの歴史を伝えている。神楽坂を育ててきた「道」に、文脈を記憶する4つの建築を提案する。内部には神楽坂の路地を移植し、銘仙の彩りをそえる。文脈は建築に記憶され、人々が集う路地が増殖していく。

comment

卒業研究／設計においては、とかく空間や形態が先行する作品が多いのだが、夢物語ではなく都市形成を助ける魅力の要素を提案した、派手さはないが非常に価値のある作品だ。変貌の激しい東京において、歴史的建物の保存という手法が取れないなか、歴史・文芸・文化のコンテキストを巧みに取り込み、論理的かつリアリティある形で都市型の魅力ある街づくりの手法を完成させている。
(担当教員 石崎 友久)

Chisato Yatsu

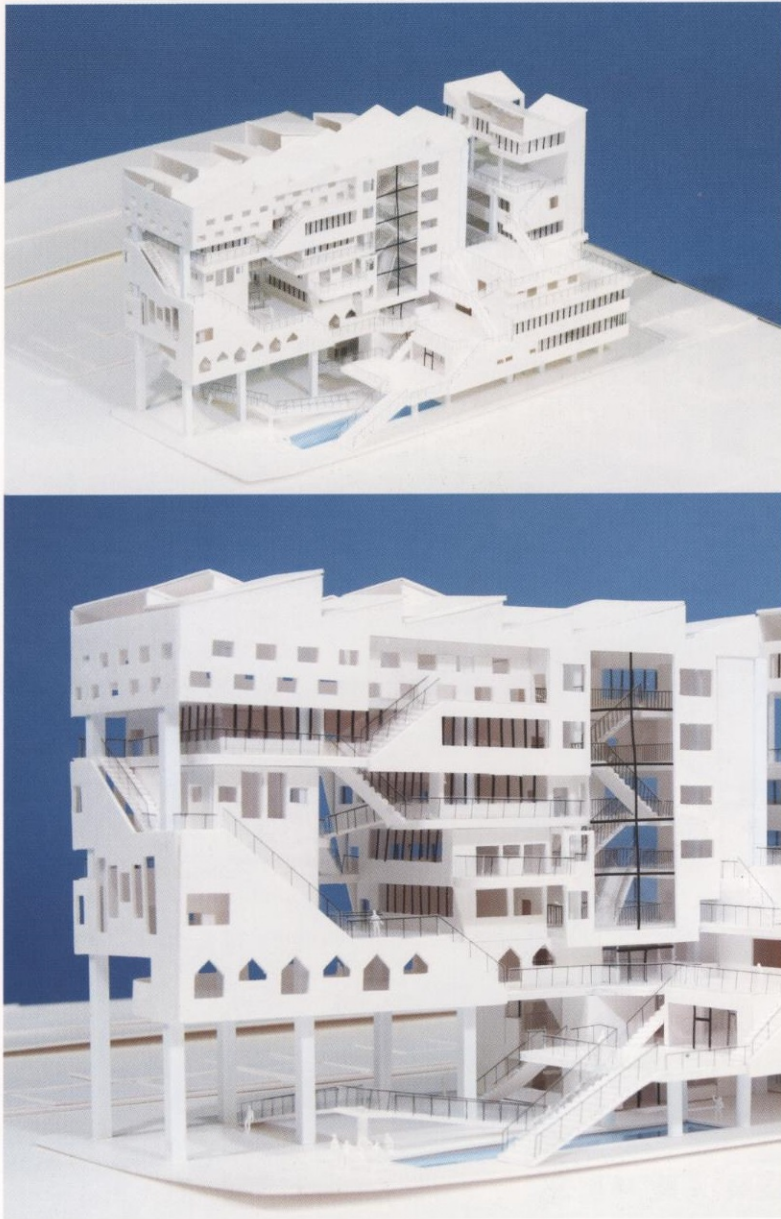
谷津 智里

東京都在住



大学を卒業後、出版社でHPなどを担当していましたが、「一生やりたいと思える仕事につきたい」と考えあぐねた末、建築の勉強を始めることにしました。かつては文系マンモス大学をほとんど授業に出ずに卒業したので初めはカルチャーショックもありましたが、家族の理解もあってなんとか続けることができました。首都圏への極端な集中や全国どこでも同じ郊外の風景に慣れを感じていて、その土地その土地の魅力的な街が広がる日本になればいい!と思っています。今後も勉強を続け、個性的で素敵な街を創っていくことに携われるようにになりたいと思います。

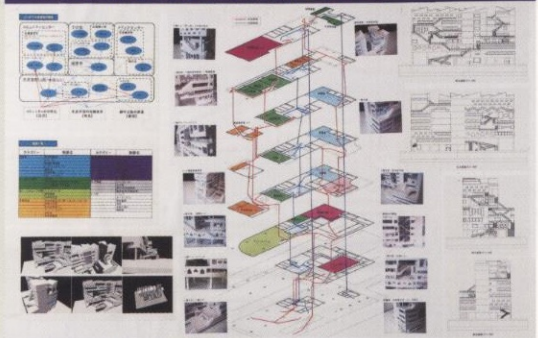
model & work panel



錦糸町駅前の生涯学習「交流・発見・創造」施設 (1/3)



錦糸町駅前の生涯学習「交流・発見・創造」施設 (2/3)



錦糸町駅前の生涯学習「交流・発見・創造」施設 (3/3)



concept

近年、新しい知識や技術の習得、および心の豊かさや生きがいのための学習需要が増大している。錦糸町の駅の周りには、雇用能力開発機構が建てた「アビリティガーデン」という再チャレンジのための色合いが濃い施設が存在するが、そこに行くためには東東京唯一の風俗街を通過しないといけないため、結構気を遣って通わなければならない。江戸時代のころ、現在の錦糸町駅周辺は隣の両国から続く下町のような雰囲気があったと思われる。現在も錦糸町駅周辺は賑わってはいるが、大部分は駅周辺の商業施設や娯楽施設を訪れる人や、電車の乗り換えのために通過する人であり、錦糸町駅の周辺で居住する人は少なくなっている。錦糸町駅の周辺では、昼夜を問わず歩道上で路上ライブ活動や物販活動を行う人が多い。安価でかつ容易に活路を求めることができる反面、路上を占有したり拡声器で大声を出す行為は道路交通法や自治体の条例に違反している。本研究では「交流・発見・創造」をコンセプトにして、錦糸町周辺で暮らす人や錦糸町の周りを通り過ぎる人などを対象に、人々の活発な交流を促し、簡単に生涯学習活動に参加したり、音楽などの創作活動を行えるような施設を計画する。

comment

単なる複合施設ではなく、その諸機能を複雑に交錯させることで「交流・発見・創造」を誘発させる、というコンセプトが、造形として明快に表現されています。三次元的な機能の配置、立体的な動線の視覚化などにより、一見して楽しそうな、アクティブなイメージが形作られています。一方で、この難しいプログラムを破綻なくまとめ上げている点も評価できます。

(担当教員 久原 裕)

Kouji Watanabe

渡辺 幸治

東京都在住



以前から借家を探している時に、住居のプランが妙に気になったり、訪れた商業施設などのプランに興味を持ったことがありました。私は、現状に甘えながら過ごす生き方よりも、興味を持ったことに挑戦する生き方をしたいと思うので、仕事をしながら学べる通信教育で、建築の勉強にチャレンジすることにしました。今後は、今回の卒業設計でのポートフォリオを作成してみるとともに、建築関連の資格を取得するための勉強に取り組みたいです。

卒業研究展の記録

愛知産業大学 主催 展覧会



名古屋展

会場	愛知県美術館 ギャラリーJ室 (愛知県芸術文化センター 8階) 〒461-8525 名古屋市中区東桜一丁目13番2号
会期	2008年3月4日(火)～3月9日(日)
時間	10:00～18:00 ※7日(金)は20:00まで(入館は閉館30分前まで)
内容	通学部建築学科と合同開催。通信教育部からは 建築デザインコースおよび建築学科の選出作品16点
入場料	無 料



東京展

会場	建築会館 ギャラリー (日本建築学会) 〒108-8414 東京都港区芝五丁目26番20号
会期	2008年3月28日(金)～3月30日(日)
時間	10:00～18:00 ※28日(金)は19:30まで(入館は閉館30分前まで)
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の選出作品16点
入場料	無 料

学生設計優秀作品展組織委員会・レモン画翠 主催 展覧会



第31回 学生設計優秀作品展 — 建築・都市・環境 —

会場	明治大学駿河台校舎 アカデミーコモン2F 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台一丁目1番
会期	2008年5月27日(火)～5月30日(金)
時間	10:00～20:00 ※最終日は17:00まで
内容	53校90学科展示 愛知産業大学からは川合幸江さんの作品 (p.9) を出展
入場料	無 料



通信教育による卒業研究の大まかな流れ

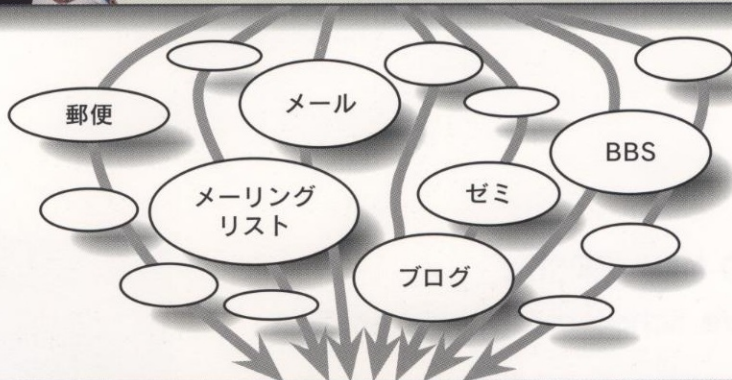
(平成19年度の場合)



卒業研究オリエンテーション

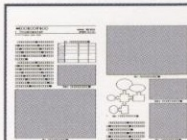
スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・全体説明および担当教員発表
- ・担当教員別に研究方針説明



様々なコミュニケーションによって探求を深める

- ・研究テーマ設定
- ・調査・資料収集・分析
- ・問題提起
- ・建築的解決提案
- ・造形研究(スタディ模型など)
- ・その他必要な研究活動



中間報告

通信

- ・レポート形式



様々なコミュニケーションによって作品を深める

- ・建築計画
- ・図面・論文制作
- ・エスキス模型制作
- ・パネル制作



最終面接審査

スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて2日間受講
- ・完成したパネルとスタディ模型を用いたプレゼンテーション



様々なコミュニケーションによって完成度を高める

- ・パネルの改良
- ・プレゼンテーション模型



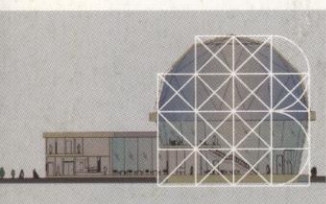
最終作品審査

通信

- ・郵送による作品提出
- ・作品パネル+プレゼンテーション模型または論文+その他必要な提出物

合否判定および選出作品決定

※詳細な事務手続等は記載しておりません



AICHI SANGYO UNIVERSITY

Dept. of Architecture, School of Distance Learning

2007 Selected Architectural Designs of ASU

Imaginary